



# 営農NEWS



## 秋冬どりキャベツの生育期における病害虫防除

キャベツの生育中には、アオムシやヨトウムシ、ハスモンヨトウ、オオタバコガ、ウワバ類などチョウ目害虫による食害を生じたり、アブラムシ類などが株に寄生して吸汁害などが発生します。現在では、生育初期の主な害虫防除対策として、プレバソンフロアブル5やジュリボフロアブルなどの育苗期後半の灌注処理、ダントツ粒剤やオンコル粒剤5などの株元処理などがあり、薬剤によって処理後2週間～1か月くらいの防除効果が期待できます。

しかし、定植前や定植時に処理した薬剤の効果が切れる頃から、害虫の産卵や幼虫ふ化が始まり、発生に気づかず防除が手遅れになってしまいますと、幼虫の食害などによる著しい商品価値の低下や減収を招いてしまいます。

病害虫発生予報 8 月号（県病害虫防除所）によりますと、8 月における発生量は、オオタバコガで平年よりやや多く、ハスモンヨトウで平年並と予想されています。

本年は、梅雨明け後に高温の日が続きました。台風 11 号の影響で、一時は降雨や気温の低下がありましたが、向こう 1 か月予報（8 月 14 日発表）によりますと、「平均気温は平年並または高い確率ともに 40%」と予想され、害虫の発生を助長する懸念があります。このため、常に作物を注意して観察し、害虫の発生初期における薬剤防除を徹底してください。

一方、天気が数日の周期で変わり、降水量は平年並の確率 40%との予想です。今年はこれまでも、地域により集中したゲリラ豪雨がありましたし、今後とも台風などが襲来する恐れもあります。もし、降雨日数が多くなると、黒腐病や黒斑細菌病、軟腐病、菌核病など各種病害の発生する懸念もでてきますので、これらの発生にも十分な注意をしてください。

病害虫が発生した場合には、下記を参考に、早めに薬剤防除を行ってください。

表 1 キャベツ害虫の本圃における主な防除薬剤（平成 26 年 8 月 19 日現在）

薬剤名	アオムシ	ヨトウムシ	ハスモンヨトウ	タマナギンウワバ	コナガ	ハイマダラノメイガ	オオタバコガ	アブラムシ類
アフーム乳剤	○	○	○	○	○	○		
フェニックス顆粒水和剤	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	
アクセルフロアブル	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	
プレオフロアブル	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	
トルネードエースDF	○	○	○	○	○	○		
コテツフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	
ディアナSC	○	○	○	○ウワバ類	○	○	○	
ファルコンフロアブル	○	○	○	○	○	○	○	
ハチハチフロアブル	○				○	○		○
オリオン水和剤 40	○	○		○				○

表 2 キャベツ病害の主な防除薬剤（平成 26 年 8 月 19 日現在）

薬剤名	黒腐病	黒斑細菌病	軟腐病	菌核病	株腐病	べと病
スターナ水和剤		○	○			
カセット水和剤	○	○	○			
カスミンボルドー	○	○	○			
バリダシン液剤 5	○		○		○	
Zボルドー	○	○	○			○
セイビアーフロアブル 20				○	○	
シグナムWDG				○	○	○
ファンタジスタ顆粒水和剤				○		
アフエットフロアブル				○	○	
ロブラール水和剤				○		
リゾレックス水和剤					○	
モンカットフロアブル 40					○	
ランマンフロアブル						○
ダコニール 1000						○
プロポーズ顆粒水和剤						○

農薬を使用する際は、ラベルに記載の登録内容、使用法、注意事項などを確認し、飛散に注意して使用して下さい。



生産資材部 営農企画課

電話：029-291-1012 FAX：029-291-1040